

青い波北陽台

『いま、自分にできるひとしづく』

教頭 松添 秀喜

いよいよ2学期がスタートします。思い返せば、この8月は登山部女子のインターハイ優勝、男子の同第3位を始めとする輝かしい成績もありました。そして目標に向かって目を煌めかせて勉強、部活動や学校行事に取り組んでいる生徒の皆さんの表情がとても印象的な1学期でもありました。2学期も体育大会や新人戦、校外試験を始め、多くの目標とするものが控えています。更なる飛躍を目指して頑張っていきましょう。

さて、1学期に行われた本校の取組の中で私が特に印象的だったのが、7月1日（金）に行われた参議院議員の選挙期日前投票所の校内設置です。確かに、本校にとって初めての取組でありましたし、多くの報道機関が取材に来られたことありますが、それ以上に真剣にこの社会についてどうすればよいのか、誰に託せばよいのか考え抜いている3年生の姿が頼もしく思えたからです。

ところで、南米アンデス地方に古くから語り継がれる昔話に次のようなものがあります。

森が燃えていました。

森の生きものたちはわれ先と逃げていきました

でもクリキンディという名の

ハチドリだけは行ったり来たり

口ばしで水のしづくを一滴ずつ運んでは

火の上に落としていきます

動物たちはそれを見て

「そんなことをしていったん何になるんだ」

と笑っています

しかし、クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」と

燃えている森は何を表しているのでしょうか。温暖化や砂漠化、海洋汚染など悪化する一方の様々な環境問題を表しているようにも読めますし、また一向に収まらない戦争や紛争、飢餓や貧困といった人類の課題であるようにも思えます。あるいは、社会全体が閉塞感を感じ、そのストレスを爆発させているかのような凄惨な事件が次々起こる今の世の中であるような印象を受けるかもしれません。どの問題も「早くなんとかしないと」と、誰もが感じていることばかりです。でも、あまりにも大きなことばかりで、「いったい、自分に何ができるというの？」と無力感もこみ上げてきます。

そのような中、小さなハチドリが「私にできることをしているだけ」と、黙々とひとしづくを運ぶ姿は、無力感を感じている心に、「何ができるかわからないけど、まずは私にできることをしよう」という勇気を与えてくれます。どんな困難な中にも、私たち一人ひとりには「できること」が必ずあるはずで。そうです、このことは、選挙における投票だけに限らず、各学校行事における取組であったり、部活動における一人一人の役割にも通じるはずで。

さあ、みなさんも自分にできることを見つけて、一步を踏み出してみませんか。たとえそれが小さな「ひとしづく」だとしてもです！



ハチドリ

1 学年より

2学期がはじまりました。44回生のみなさんとまた顔を合わせることができて嬉しく思います。節目ということで、あらためて4月に示した学年スローガンを確認したいと思います。

学年スローガン「Be the Change」

～スローガンに込めた思い～

- ・自分自身の考えや行動をよりよい方向へ変化させてほしい。
- ・自分の考えや行動により、周囲に良い影響を与え、集団を変化させてほしい。
- ・変化の激しい予測不可能な時代を生きていくために必要な資質、能力を身につけてほしい。

3番目に挙げた、予測不可能な時代を生きていくために必要な資質、能力とはどのようなものでしょうか。これは、様々なことが挙げられると思いますが、この中のひとつに、「主体的に物事に取り組む態度」が挙げられると思います。学校でも、みなさんの主体的な活動を促す取組を今後も実践していきますので、頑張ってください。

また、先日の学年集会で、みなさんには「受け身の学習から脱却しよう」と伝えました。まず、学習面で取り組んでほしいことは、授業の予習復習です。授業を中心に学習を行い、学習について自己分析し、自己理解を深め、自分にあった学習スタイルの確立に努めましょう。やらされる学習ではなく、自分のための学習を心がけてみましょう。

◎Classi 学習時間入力1か月チャレンジを実施します

9月を学習時間入力の強化期間にしたいと思います。以下のような内容で実施します。

<内容>

- ・期間は9月1日～30日
- ・Classi への学習時間の入力と、コメントの入力を毎日行う。
- ・コメントは別途カレンダーに記載されたお題に応じて入力を行う。

学習時間入力を行うことで、自分自身の学習習慣をふりかえましょう。また、Classi などの教材の有効活用について考えてみましょう。

◎総合的な探究の時間（普通科）について

7月に、地域の課題に関する講話が5回実施されました。長崎の現状や課題、その解決に向けたさまざまな取組について理解が深まったと思います。今後は、各クラスで班別に探究活動を行います。地域のために、自分たちができることを考え、充実した活動にしましょう。合わせてふるさと長崎への愛着と誇りを深め、地域に貢献する態度を養いましょう。

2 学年より

本校では総合的な探究の時間「陽の丘の時間（HAL（Hinooka Active Learning）-Time）」という学習活動を行っており、2 学年においては、以下のことに取り組んでいます。

〈普通科〉興味関心についての事前調査をもとに生徒で班を作り、地域課題の解決策を実験や調査などを行うことを通じて思考・考察し、結果をまとめて発表する。

〈理数科〉班または個人で設定した課題について、科学的な手法による研究を行い、報告をまとめて発表する。

この総合的な探究の時間の活動で、去る 7 月 25 日～29 日の 5 日間、普通科ではフィールドワーク（大学や企業等を訪問し調査や聞き取りを行うこと）を行いました。このフィールドワークの経験を通して普通科の生徒たちは自分たちの取り組みに手ごたえを感じたり、課題を再発見したり、様々な感想を持ったようです。生徒の感想について一部紹介いたします。

防災 c 班 2 年 6 組 東郷瑠羽

私たちの班は、「避難所が水没!？」をテーマに、長与川の氾濫の危険性などを調べている。そのためにフィールドワークでは長崎地方気象台と長与町役場を訪れた。長崎地方気象台では、災害時に出される緊急速報や避難指示の仕組みについてお話を聞いたり、積雪量や雨量、気温、湿度を測ることができる機械を見学できたりして、とても貴重な経験になった。長与町役場では調べていく中で疑問に思ったことについてたくさん質問した。その結果、「避難所は水没しない」ということがわかったので、新たなテーマを考えていく必要がある。

教育 d 班 2 年 6 組 児島未純

自分たちの班は、長与町の小学生の登下校時の危険を減らす取組を行っています。フィールドワークでは実際に長与小学校付近を歩いてみて、危険な箇所を見つけたりしました。地図などで調べることもできたけど、実際に自分の目で見ないとわからないこともあったため、インターネットに頼りきりにならずに足を運ぶことも大事だとわかった。今回は主に緑ヶ丘団地とビューテラスでたくさん見つかったので、これからは今回の成果をもとにしてパンフレットを作ろうと思います。そしてゆくゆくは実際に小学生に見せることができたら良いなと思います。

自然環境 f 班 2 年 6 組 松永拓海

自分たちの班は「プラスチックを役に立てよう」というテーマで、1 日目に時津のウォーターフロント公園、2 日目に長与川でゴミ拾いをしました。その後プラスチックごみとその他に分け、プラスチックごみ以外は分別して捨てて、プラスチックを利用してイヤリングとしおりを作成しました。フィールドワーク中に一番驚いたことは、2018 年のお茶が入ったペットボトルが落ちていたことです。約 3,4 年の間で海に分解することなく陸に落ちていました。プラスチックは海に還ることができないので、きちんと一人ひとりが分別して捨てるべきだと感じました。

医療・衛生・福祉d班 2年6組 松井茜

私たちの班では、視覚障害者用の地図を作ることがテーマになっている。フィールドワークでは地図を多く作成している株式会社ゼンリンに行き、地図の仕組みや作成方法などについての説明を受けた。これからは特別支援学校の方々に協力していただき、道路上の危険などについて調べていきたいと思っている。そして調べたものの中で地図に載せたい事柄をゼンリンに伝え、最終的には地図の完成を目指して取り組んでいる。

観光e班 2年6組 今里光希

「長崎の魅力を発信するためのサイト作りをする」最終的にそこにつなげられるように、今回は長崎大学の方と兵庫県神戸市にある会社と意見交換を行いました。サイトにはこの会社の全天球カメラを使い、360°の画像（動画）を用いて、より長崎の魅力が伝えられるようにするつもりです。自分たちは初めてこのカメラを使うので、使い方を教えていただき、軽く実践練習まで行いました。高校生ならではの視点で撮ることができるよう頭を柔軟にして、様々なアイデアを出してよりよくしていきたいです。



(長崎地方気象台を訪問)



(長崎県庁で各課の方々と)

去る7月26日、42回生を対象に「天王山の高3の夏 人生で一番頑張った夏に」と題して、進路講演会が行われました。

講師は、ベネッセコーポレーション顧問の田川祐治先生。長く県内の数学を引っ張ってこられた方であり、校長としても数々の実績を残してきました。我々教員の中にも、現役高校生のとき、または教員としても若いころに鍛えていただいた人も多くいます。田川先生は、現在も進路指導のプロとして、全国を飛び回り活躍されています。

さて、そんな田川先生からは以前と変わらず、いや以前にも増した熱いお話が3年生に向けられました。題名にもある通り、受験生のこの夏をどのように過ごすのか、これから受験本番に向けてどうあるべきかを語っていただきました。

主な内容は

- ・もっと上を目指して
- ・英語の重要性（教科としてだけでなく）
- ・夏の校外学習会への心構え（考え抜いて、解き抜いて、粘り抜く）
- ・受験の3つの力「学力」、「体力」、「気力」
- ・入試で問われる4つの力「論理的思考」「知識」「スピード」「表現」
- ・一度しかない人生、自分を活かしきる人生を
失敗を恐れず それを糧にし、メゲない ブレない 引きずらない
「やらされる百発より やる気の一発」
「高3の夏 = 人生で一番学習した夏に」

といったものでした。具体的なデータなども示しながら、分かりやすく説明していただきました。

大変暑い中でしたが、それにも負けない田川先生の叱咤激励に42回生も大いに刺激を受けたようです。この夏の校内外の学習会を通して、42回生の意識が大きく変わっていきっかけになったことと思います。

共通テスト100日前には、再び田川先生の講演会が行われます。その時にはまた違った姿勢、顔つきで講演会に臨む42回生を期待したいと思います。

理数科より

理数科プログラム長崎大学研修 I (水産)

8月4日(木)・5日(金)の2日間、埋数科1年生が長崎大学水産学部の先生方の指導のもとで8つのテーマに分かれて研修をしました。時津港、鷹島、新長崎港等で採集したサンプルの調査、分析を行い、最新の施設設備を用いた専門的な研究に触れ、「本物」の自然科学を知る貴重な機会となりました。



大村湾に生息するフグの毒性



ひずみゲージを使った魚の引っ張り力計測釣り竿の制作



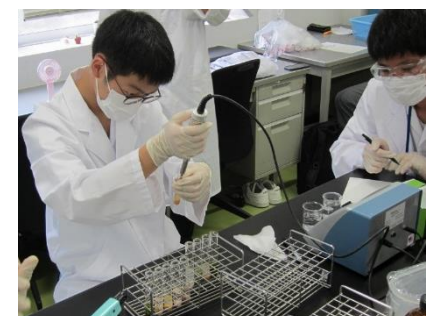
魚種を判別するにはどんな情報が必要？



はたらく細胞「魚と細菌の戦い」



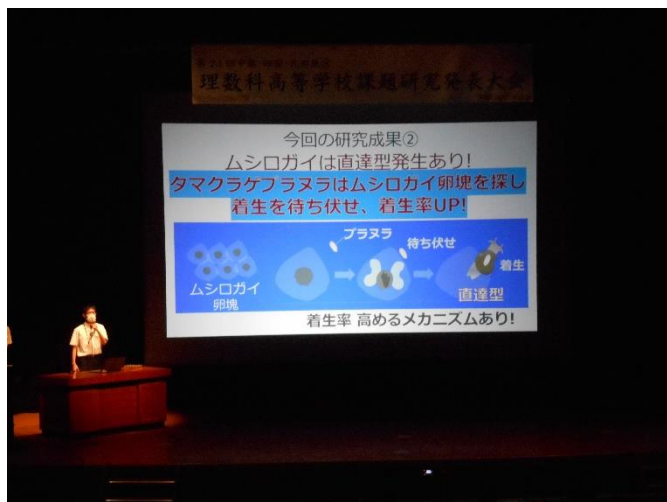
海の酸性化が海洋生物に与える影響の検討



水産食品に含まれる抗酸化活性の評価

第24回 中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会（高知大会）

8月18日(木)高知市にて、第24回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会が行われました。長崎県代表として、本校理数科のヒドロ虫研究班が「2種のヒドロ虫の選択的着生に関する研究」と題し発表し、優良賞を受賞しました。発表した4人は大変緊張した様子でしたが、堂々と発表し、質疑応答にもしっかりと答えることができました。



『人生で一番頑張った夏』を目指して

進路指導部

第3学年では、7月30日（土）～8月8日（月）〔日曜日は除く〕まで夏季学習会を実施しました。午前8時30分から午後5時50分までの学習に加え、帰宅後さらに2時間以上の学習で、延べ10時間以上の学習を目標に頑張りました。

特に、8月1日（月）～8月5日（金）の期間は、長崎ロイヤルチェスターホテルを会場に校外学習会を実施しました。5クラスと2クラスが毎日ローテーションしながら、一堂に会して学習を行いました。普段とは異った、まるで試験会場のような雰囲気の中、1コマ120分(×④)の学習を黙々とこなしていきました。分からない問題は質問カードを提出して担当教科の先生に質問を行い、疑問点を次々と解消していきました。最初はあれだけ辛かった学習も、後半はあっという間に終わるくらい集中出来たという感想もありました。この経験を今後の学習にも生かしていってくれるものと思います。

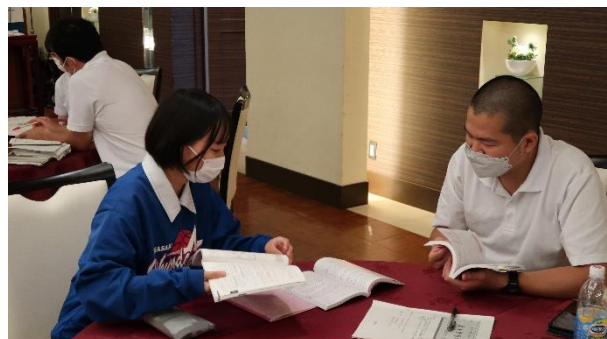
なお、2日目(8/2)に山口校長、3日目(8/3)にPTAより激励の品（ジュース等）をいただきました。本当にありがとうございました。また、長崎ロイヤルチェスターホテルのスタッフの皆様、様々なご配慮をいただき、誠にありがとうございました。



「大ホール」



「中ホール」



「質問風景」



「昼食（お弁当）の様子」

以下は、生徒の感想です。（一部抜粋）

- ・200人規模で無言の状態がつくられていると思うととても集中しやすかった。
- ・一人で10時間勉強することはできるけど、学年全体でその勉強雰囲気を経験できてよかった。周りがあるから自分も頑張れた。
- ・最初きつかった二時間も、最終日に近づくにつれて、つらいと感じなくなって学習会の偉大さを知りました。
- ・質問カードがあることで質問しやすかったです。一対一で教えてもらえるので理解が深まりました。
- ・周りを見るとみんなが集中している姿を見て自分も頑張れました。
- ・ロイヤルチェスターホテルでのお弁当も、とても美味しく、学習の励みになり、頑張ることができた。
- ・毎日席が変わるので気分も変わって集中しやすかった。

吹奏楽コンクール九州大会を終えて

～賞より大切なもの～

吹奏楽部顧問 田代 悟


吹奏楽部は今年度 7 月 24 日（日）長崎ブリックホールで行われた第 67 回県大会で金賞を受賞し県代表に選ばれ、8 月 21 日（日）熊本県立劇場で行われた九州吹奏楽コンクールに出場してまいりました。これは 8 年ぶりの快挙です。ここ 2 年間、コンクールの開閉会式はコロナ対策のため行われず、成績発表はすべての団体の演奏終了後、県吹奏楽連盟のホームページにアップされます。私は 24 日の夕刻に本校音楽室で部員達に出場 44 団体中、代表校 4 校に選ばれたことを伝えました。その報を聞き、満面の笑みを浮かべる者、泣いて抱き合う者、大声で歓声をあげる者と様々で、まさに輝くような高校生の表情がそこにはありました。しかし、喜んでばかりではられません。九州大会はかなりハイレベルなコンテストで、特に福岡県勢は全国大会でも金賞を受賞できる団体が数校あります。さらに気を引き締め、他の学校を意識することなく、爽やかな北陽台サウンドを奏でることを再確認させました。

本来、3 年生は 6 月の県高総体後、殆どの生徒が大学受験の態勢を整えていく中、吹奏楽部は 8 月まで部活動を行うことになりました。保護者の皆様におかれましても、このことに関しては、さぞご心配なされたことと拝察いたします。3 年生部員は九州大会と学習との二つのプレッシャーで精神と肉体の極限まで追い込まれます。さらに大会前にコロナ濃厚接触者になる生徒、練習中に疲れで高熱を出す生徒、大会直前に入院する生徒等ありましたが、精神を奮い立たせ、何とか全員で出場出来ました。結果は銀賞でしたが、このことは、今後大きく繋がっていくものと思います。しかし、賞よりも大切なものは、様々な困難を乗り

越え、このステージに立つことで自身の弱さに負けない強い精神と体力を身に付けることにあります。「大学受験に絶対に勝つ」この精神です。今後、吹奏楽部3年生19人がこのことを糧とし、冬に向かって徐々に人間力を高め、大学入試という全国大会の大舞台上、全員が金賞であることを心から祈っております。



9月の主な行事予定

9日(金)	代休(9/10)	
10日(土)	1, 2年: ①~③会場設営④~⑦授業 3年: ①~③授業 ④~⑦体育大会準備	
11日(日)	体育大会(雨天時: 火曜日授業+準備)	
12日(月)	代休(9/11)(9/11雨天時の体育大会予備日)	
13日(火)	代休予備日	
15日(木)	生徒支援講話(薬物乱用防止教室)	
17日(土)	校外マーク模試(3年) 土曜自学(1・2年)	
18日(日)	校外マーク模試(3年)	
22日(木)	試験時間割発表	
29日(木)	2年2学期中間試験 3年学年末試験 ~10月4日まで	
30日(金)	PTA 常任委員会 学年PTA・学級懇談会	

夏休み中の部活動結果は、北陽台のHPをご覧ください。登山部女子、優勝など